

議会だより



伊仙町ふれあい福祉スポーツ大会の一コマ。スポーツの秋を満喫して、心も体もリフレッシュしているようでした。選手・関係者の皆様、大変お疲れ様でした。

(場所：伊仙町総合体育館 写真協力：伊仙町社会福祉協議会)

目次

平成 24 年度伊仙町一般会計他 6 特別会計歳入歳出決算報告	2P ~ 4P
町民の皆様へ各種税の納付のお願い	3P
第 3 回定例会一般質問 (福留・杉並・上木・伊藤・永田・琉の 6 議員登壇)	6P ~ 10P
町民の声・議会の動き	11P ~ 12P

平成 25 年 12 月議会は 12 月中旬頃の開会を予定しております。詳しい日程は、伊仙町議会事務局 (86-3111 内線 16) までお問い合わせください。

6 特別会計歳入歳出決算報告

平成24年 一般会計歳入歳出決算対前年比較

平成24年度 一般会計歳入歳出決算対前年比較

(歳入)

(歳出)

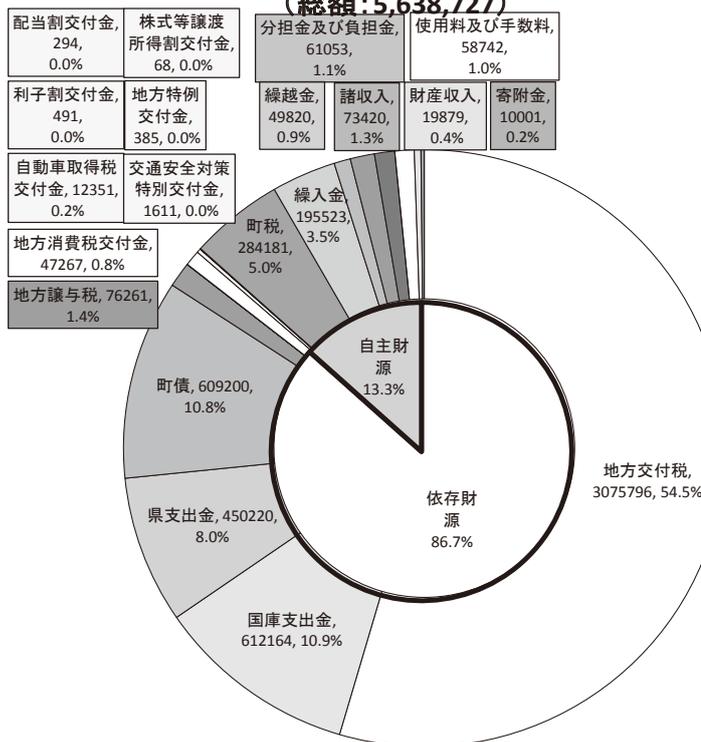
(単位:千円)

款	平成24年度決算額		平成23年度決算額		比較 (A)-(B)= (C)	伸率 (C)/(B) %	款	平成24年度決算額		平成23年度決算額		比較 (A)-(B)= (C)	伸率 (C)/(B) %
	(A)	構成比 %	(B)	構成比 %				(A)	構成比 %	(B)	構成比 %		
1 町 税	284,181	5.0	285,085	5.2	△ 904	△ 0.3	1 議 会 費	90,256	1.6	107,054	2.0	△ 16,798	△ 15.7
2 地方譲与税	76,261	1.4	81,696	1.5	△ 5,435	△ 6.7	2 総 務 費	918,578	16.7	737,800	13.7	180,778	24.5
3 利子割交付金	491	0.0	652	0.0	△ 161	△ 24.7	3 民 生 費	1,221,685	22.2	1,224,072	22.7	△ 2,387	△ 0.2
4 配当割交付金	294	0.0	415	0.0	△ 121	△ 29.2	4 衛 生 費	492,804	9.0	487,715	9.0	5,089	1.0
5 株式等譲渡所得割交付金	68	0.0	65	0.0	3	4.6	5 労 働 費	17,027	0.3	64,249	1.2	△ 47,222	△ 73.5
6 地方消費税交付金	47,267	0.8	48,024	0.9	△ 757	△ 1.6	6 農 林 水 産 業 費	446,079	8.1	477,108	8.9	△ 31,029	△ 6.5
7 自動車取得税交付金	12,351	0.2	10,091	0.2	2,260	22.4	7 商 工 費	20,737	0.4	46,590	0.9	△ 25,853	△ 55.5
8 地方特例交付金	385	0.0	14,062	0.3	△ 13,677	△ 97.3	8 土 木 費	665,473	12.1	623,412	11.6	42,061	6.7
9 地方交付税	3,075,796	54.5	3,061,718	55.5	14,078	0.5	9 消 防 費	156,315	2.8	198,935	3.7	△ 42,620	△ 21.4
10 交通安全対策特別交付金	1,611	0.0	1,682	0.0	△ 71	△ 4.2	10 教 育 費	355,748	6.5	555,404	10.3	△ 199,656	△ 35.9
11 分担金及び負担金	61,053	1.1	60,084	1.1	969	1.6	11 災 害 復 旧 費	226,450	4.1	63,009	1.2	163,441	
12 使用料及び手数料	58,742	1.0	54,640	1.0	4,102	7.5	12 公 債 費	892,738	16.2	805,590	14.9	87,148	10.8
13 国庫支出金	612,164	10.9	773,201	14.0	△ 161,037	△ 20.8	13 諸 支 出 金						
14 県 支 出 金	450,220	8.0	380,921	6.9	69,299	18.2	14 予 備 費						
15 財 産 収 入	19,879	0.4	7,649	0.1	12,230	159.9							
16 寄 附 金	10,001	0.2	5,264	0.1	4,737	90.0	歳 出 合 計	5,503,890	100.0	5,390,938	100.0	112,952	2.1
17 繰 入 金	195,523	3.5	3,182	0.1	192,341								
18 繰 越 金	49,820	0.9	126,007	2.3	△ 76,187	△ 60.5							
19 諸 収 入	73,420	1.3	73,677	1.3	△ 257	△ 0.3							
20 町 債	609,200	10.8	532,642	9.6	76,558	14.4							
歳 入 合 計	5,638,727	100.0	5,520,757	100.0	117,970	2.1							

(注)各款ごとの決算額は、決算統計上の分類方法により決算書の額と一致しないものがある。

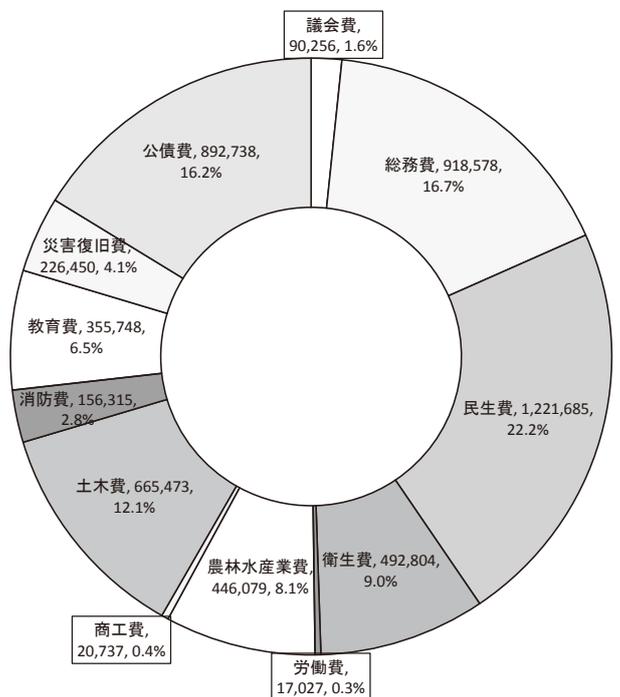
科目別歳入状況

(総額:5,638,727)



科目別歳出状況

(総額:5,503,890)



平成24年度伊仙町一般会計他

平成24年度伊仙町一般会計・特別会計決算まとめ（単位：千円）

会計名	歳入	歳出	翌年度へ繰り越すべき財源	実質収支
一般会計	5,638,727	5,503,890	21,211	113,626
ほーらい館	125,631	111,247		14,384
国民健康保険	1,196,426	1,182,158		14,268
介護保険	942,225	934,870		7,355
後期高齢者医療	161,857	160,499		1,358
簡易水道	237,112	235,038		2,074
水道事業	85,338	78,918		6,420
合計	8,387,316	8,206,620	21,211	159,485

～ 町税・使用料・保育料等の納付についてのお願い ～

各種税・分担金・負担金・使用料等で収入未済額があります。特に昨年度においては、未曾有の大型台風等の被害により、基幹産業である農業等において大きな打撃を受け経済状況の悪化が深刻であります。これらについて配慮すべき点もありますが、今後も町民相互の公平性を保つためにも、法律に基づいた滞納処分及び時効中断措置を行って財政健全化に努めていくことが望まれます。

町の財産はすべての町民のものであり、その財産を子や孫に残せるかは今いる私たちにかかっています。

つきましては、町民の皆様におかれましても今後、益々財政が厳しくなることが予測されますが、より一層のご理解とご協力をお願いいたします。

平成24年度伊仙町一般会計歳入歳出決算他6特別会計歳入歳出決算について

一般会計について

当決算審査特別委員会に付託されました、平成24年度伊仙町一般会計歳入歳出決算他6特別会計歳入歳出決算について、去る9月17日に決算審査特別委員会を開き、審査した結果についてご報告申し上げます。

各委員よりあらゆる方向から質疑があり、財政難の中において予算が有効かつ適正に運用されているか審議をいたしました。

まず、一般会計において、

- ①特産品製造販売プロジェクト事業の遅れについての質疑に対して、土地所有者等のいろいろな事情等により遅れたとの回答がありました。
また、最高責任者としてすべてのことを把握すべきではとの質疑に対し、すべてを把握することは困難であります。担当課長を信頼して任せることも大事であるとの答弁がありました。
- ②企業からの寄付の受け入れについての質疑に対して、寄付をいただけることは伊仙町にとって大変喜ばしいこととあります。企業に対して、もう一度確認を取りますとの答弁がありました。
- ③長命草の今後の見通しについての質疑に対して、現在、販売等 苦戦していますが、現会員を中心に努力していきますとの答弁がありました。
- ④繰出金が多く財政運営は大丈夫かとの質疑に対して、確かに厳しい状態ではありますが、企業誘致・人口増等を図り交付税の確保等に努めてまいります。
- ⑤分担金・使用料等収入未済額が多いが、どのように取り組んでいくのかとの質疑に対し、徴収への取り組み方を変えて常時徴収にあたるようにして徴収率アップにつなげていきます。
- ⑥ほーらい館指定管理者制度移行に関する質疑に対しては、すでに説明会を実施しており、12月議会に報告できる見込みであります。との答弁がありました。

特別委員会全体を総括すると今後の予算執行にあたっては計画的な事業執行と緊張感を持ちつつ弾力性のある予算執行を強く望むものであります。

なお、実質単年度収支等で平成24年度においては、災害等でマイナスとなっておりますが、今後はそういった災害等も考慮した予算執行を行っていくことも申し添えます。

採決の結果

●平成24年度伊仙町一般会計歳入歳出決算 ●平成24年度伊仙町国民健康保険特別会計歳入歳出決算 ●平成24年度伊仙町介護保険特別会計歳入歳出決算 ●平成24年度伊仙町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算 ●平成24年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計歳入歳出決算 ●平成24年度伊仙町簡易水道特別会計歳入歳出決算 ●平成24年度伊仙町上水道事業会計歳入歳出決算については認定することと決定しました。

伊仙町議会

平成25年 第3回伊仙町議会定例会 全議案（会期9／11～18）

番号	議案等	採決結果
報告第2号	平成24年度健全化判断比率	報告
報告第3号	平成24年度資金不足比率	報告
議案第42号	伊仙町新型インフルエンザ等対策本部条例の制定	原案可決
議案第43号	伊仙町歴史民俗資料館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第44号	伊仙町肉用牛特別導入事業基金条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第45号	高齢者等肉用牛導入基金条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第46号	伊仙町過疎地域自立促進計画の一部変更	原案可決
議案第47号	伊仙町辺地総合整備計画の一部変更	原案可決
議案第48号	平成25年度伊仙町一般会計補正予算（第3号）	原案可決
議案第49号	平成25年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	原案可決
議案第50号	平成25年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第1号）	原案可決
認定第1号	平成24年度伊仙町一般会計歳入歳出決算	認定
認定第2号	平成24年度伊仙町国民健康保険特別会計歳入歳出決算	認定
認定第3号	平成24年度伊仙町介護保険特別会計歳入歳出決算	認定
認定第4号	平成24年度伊仙町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	認定
認定第5号	平成24年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計歳入歳出決算	認定
認定第6号	平成24年度伊仙町簡易水道特別会計歳入歳出決算	認定
認定第7号	平成24年度伊仙町上水道事業会計歳入歳出決算	認定
議案第51号	平成24年度社会資本整備総合交付金木之香団地建築本体工事請負契約について	可決

平成25年 第3回伊仙町議会定例会 議員発議一覧

番号	議案等	採決結果
発議第3号	道州制導入に断固反対する意見書の提出について	採択
	以下余白	

平成25年第3回定例会(9月)

一般質問



福留 議員

問 3期目(4年間)における実績と評価について。

答 人口が増加していく町づくり、農業生産額50億円達成が大きな目標でありました。数値目標に達することはできませんでしたが、将来に向けての大きなビジョンを打ち出し、それに向かっていく土台づくりができた4年間だったと思います。今後はさらに、それを着実に実行するために、議会・町民の方々ともしっかりとした議論を行いながら頑張つて参ります。

問 企業誘致等を含め、今後の商店街の活性化に向けての取り組みについて。

答 企業誘致により、多くの雇用が生まれ、地方の町が活性化される。都会の企業もそういったことを求めているような気が致します。今後もあらゆる営業活動や、もてなしの島をアピールして企業誘致による雇用・定住促進につなげてまいりたいと考えています。また、Aコープ誘致も行っていきます。伊仙町の約8割の方が、町外での買い物を行っています。現状を見るときに、地元商店街はAコープ誘致による町内における購買者の増加をチャンスと捉え、消費向上へ最大の努力をして欲しいと思います。現実には、非常に厳しい面もありますけれども、そういうことを乗り越えて

えてこそ発展はあると思います。商工会の方々も今回は衝撃だったかもしれませぬ。けれども、時代というのは常に流れが変化していきます。新しい価値観やサービスを提供し続けなければ発展はないわけですし、またそういった努力の中に必ずチャンスもあるものだと思います。



県道拡幅により町の風景が大きく変わり、交通アクセスが大幅に改善されたが、町の経済を支える消費者の意向を踏まえながら商店街活性化に向けて官民一体となって連携することが急務である。(写真：伊仙町役場周辺通り)

問 新たに創設された交付金制度について。

この交付金による支援内容の多くが、長年にわたり奄美群島民が抱え、要望してきた事項を真正面から受け止めてくれている画期的な制度であります。今後、この交付金制度で徳之島を含めた奄美群島民はどのように発展し、自立していくと考えるおられるのか問う。

答 奄振予算のなかに、地元自治体の意向に沿って、もっと自由に活用できる交付金を投入するというのが、この制度の内容であります。沖縄県は、航空運賃や船運賃の助成、すべての農産物の鹿児島までの輸送費を助成しているわけですが、奄美の農産物は最初から勝負にならないわけです。ですから、現在バレイショ1kgの鹿児島までの輸送費が15円ですけれども、この輸送費をゼロにしたい。鹿児島までの片道航空運賃が現在18,000円ですが、10,000円前後まで持っていこう、船運賃への助成、こういった要望を行っているわけです。



杉並 議員

問 平成25年第2回定例会の一般質問において、伊仙町肉用牛特別導入事業基金並びに高齢者等肉用牛導入基金の資料要求をしたが、なぜ提出がなかったか。議会を冒瀆してないか。

答 平成25年第2回定例会の中で杉並議員から一般質問がございました。この資料につきまして、我々できておりました。その中で報告提出を忘れていたということでございます。非常に申し訳なく思っております。



肉用牛導入を目的とした導入基金については、借受者の経営状況を勘案し、導入の有無を講じてきたが、現在の基金運用状況では貸付金の未納等により、今後の導入基金の存続すら懸念される。

(写真：徳之島中央家畜市場)

問

町税等の調定額 9億8000万、収入済み額6億7000万、不能欠損額680万、収入未済額2億9700万、調定額は、法に基づいて設定した財源であるわけですが、収入額の1割が不能欠損になっている。町長としての見解はどうか。

答

徴収に関しまして調定は最大限に調定額を設定することになりま



上木 議員

要であります。けれども単年度で100%にいかない状況がございます。今後とも不能欠損のないように滞納分の徴収を上げていくように各課で努力していくように指導していきたいと思

問

平成19年第4回の定例会において滞納整理機構の設立について徳之島3町の中で提案をしてまいりたいと思

答

平成19年個々の滞納整理に関しまして広域連合の方でと答弁しましたが、県も滞納整理という形で県から職員を徳之島事務所に派遣をして県と3町が一体となった滞納整理機構が設立され、そちらの方でやっていく方がベターということ

問

闘牛大会の興業化について、良い血統の牡牛を飼養育成する畜産農家は富裕者になれるが、闘牛の飼養、育成や闘牛大会等の興業では、金儲けはできないとも言われていま

答

闘牛も文化のひとつだとして認識しては、今年10月5日と6日(台風により13・14日に延期)に全国闘牛サミットを開催いたします。この「徳之島な

また、「牛持つもの一番馬鹿、見るもの二番馬鹿」とのことわざもあつて、賛否両論あつて、なかなか興味は尽きないとの事でもあります。しかし、あまりにも興業化し過ぎて弊害も目立つようになり、行く行くは昔の奥深く素朴な土俗・土着伝統・伝承文化のその意義が見直される時がくるか



徳之島地域文化情報発信施設として、順調な運営がなされている「徳之島なくさみ館」。文化・情報の発信基地として、島の経済浮揚の起爆剤となるようなイベントの開催が期待される。

問

公共・公営闘牛場内で血みどろの真剣勝負をつけるあり方と賭博のうわさもある。どう考えているのか。

答

徳之島の闘牛大会については、勝負をつけるのが400年前からあつたとの事で、これが伝統文化となっております。

徳之島の闘牛では、他の地域にはない、応援風景が独特の伝統となつておりますので、血みどろの戦いのある場合もありますが、大半はそうでもありません。全国の闘牛文化のある自治体、6県9自治体であります。このなかでも角を研がないのは、岩手県と新潟県だけであります。あと宇和島、沖繩、徳之島半分以上が角を研いで、勝負をさせて勝敗を決しているのとことです。また、徳之島闘牛連合会でも規約を定めて、興業申請を初めとする事務手続きをしております。ちなみに、規約の第35条で勝負は真剣勝負とされており、行政が関与する問題ではないと認識しております。また、賭博の噂につ

ては、行政としてその様な事実はないと考えておりません。

問 直売所百菜について、百菜組合の受託運営組織構成の整備は整ったか。

答 今の百菜の規約では、対応しきれない部分があるとのこと、役員会を開き、規約・組織をどのように構築していくのか議論を進めていると聞いております。

問 Aコープ誘致について、突然、突如あまみ農協との5項目の合意文書なるものを突き付け、町議会で町有地の無償貸付を議決し、事業を強行しようとしている。町を破滅させる暴挙である。撤回を求めらる。

答 Aコープ会社から伊仙町内にAコープ店舗を建設することは、非常に厳しいとの話だったので、町有地の無償貸付を申し出た次第です。また、買いい物弱者対策についても、特に伊仙町は、集落の家々が点在しているので、この

事業が成功することが最も必要と考えております。商工会の方々が、大型店舗は来ないと思ひ込み、最大の努力をしてこなかった面もあると思います。プレミアム商品券とか、商工会助成事業も町は、毎年行っております。今回のことを転機・チャンスだとみて、商工会会員がやる気を出して、町内で購入するような運動、努力をすれば周辺の人達が各集落の店を利用されると思います。商工会員から、商工会・行政・Aコープで町づくり協議会を立ち上げたいとの声もあります。撤回する考えはございません。

問 町財政について、平成23年度伊仙町一般会計の実質単年度収支は1391万4千円の赤字であった。平成24年度も実質単年度収支は、1億7204万3千円の赤字となっている。基金現在高は、5億4105万3千円である。徳之島ダムの償還金にも不足している。どうするのか。

答 平成24年度に3つの大きな台風の襲来等があった、そこに被害の単独助成事業として、2億900万円の助成をしている関係上増嵩しました。

これから、2カ年間、大規模事業は一旦中止して、徳之島ダムの償還金返済に全力を傾けていく覚悟であります。徳之島用水1・2期の償還金財源につきましては、今ある基金からの繰出し金4億9252万5千円に起債1億1070万円を発行して、対応します。特に資金不足ということではありません。

観光行政について、小島暗川から犬田布岬周辺にかけての観光コースとしての整備事業計画はあるのか。



伊藤 議員

答 犬田布岬におきましては、昭和50年に整備、3,646万円ほどかけて整備したわけですが、非常に老朽化が進んで、トイレ等も崩落の危険があるということ、国にお願いしたところ、観光連携整備事業で、本年度から約2年ぐらいかけて整備を進める計画をしています。

問 住宅建設について、犬田布岬に町営住宅があるが、築何年になっていくのか。また、今後建て替えや移転などは計画されているのか。

答 犬田布岬団地は、昭和40年に鉄筋コンクリート造りで、1棟4戸の仕様で建設されました。現在、築後48年を経過しています。平成22年度に作成された、伊仙町公営住宅等長寿命化計画では、岬住宅は塩害などの影響もあり、老朽化が著しいため、用途廃止の方向で位置づけられているのであります。同計画において、岬住宅の建て替え移転の計画はありません。

問 農業行政について、昨年は3度の大型台風で、家屋、倉庫、牛舎、農産物等で甚大な被害を受け、またサトウキビにおいては、イノシシ、メイチュウ被害、バレイシヨにおいて、価格の暴落と大変な年でありました。また、最近においては、メイチュウ以外の害虫が異常発生しているというが、その後の状況と発生場所、被害状況の調査はしているのか。

答 発生状況ですが、8月27日に発生を確認し、西犬田布地域、犬田布岬のそばで、ローズ畑の面積が60a、一晩で食い尽くされ、9月2日に小島地域のほうで15aのローズ畑に発生し、これも一晩で食い尽くされたという様な状況でございます。対応の方法としては、経済課、南西糖業、JAあまみなど関係機関が一体となりまして、8月28日に圃場周辺を、一斉防除を実施いたしました。



メイチュウ被害により壊滅的な被害を被ったサトウキビ。山間部においては、イノシシ等の被害により農作物全般の被害が拡大している。今後も継続的な鳥獣・害虫被害防止策を講じていかなければならない。(写真：サトウキビに寄生しているメイチュウ)



永田 議員

問 東京オリンピック開催の今後の取り組みについて。9月8日に2020年東京オリンピック開催が決まり、同じく2020年に鹿児島国体もあります。わ

が伊仙町からも優秀選手を輩出できるように、人材育成や強化対策等どう取り組んでいくのか。

答

まず人材育成には、今の小・中学生が対象になると思います。特に小学生は社会教育団体であり、スポーツ少年団を通じて各種スポーツ体験をし始めるので、大事な時期を考え、伊仙町においても活動が盛んになるよう支援し、また活動の助成ができるよう進めていきます。また、優秀な人材を育てるためには、指導者の資質向上も重要な課題であります。今後指導者の研修なども充実させ、人材育成に努めていきたい。また、わが町の少年団の中から、強化選手等に指定されることがあれば、積極的に支援していきたい。また、新しく総合体育館を増築した関係上、スポーツ人口を増やしていきたいと考えております。

問

問1の質問に付随して、鹿児島国体開催に伴う、観光客を掴むために、今後どのようにアピ

ルしていくのか。

答

昨年度からの県の希望調査の結果、天城町でのトライアスロンが決定されている。残念ながら伊仙町は、外れてしまいましたが、徳之島の観光連盟、宿泊施設関係、3カ町連携を図りながら、観光客の受け入れを対応したい。また、2017年には世界自然遺産登録となる予定なので、それを同時並行してアピールしていきたい。

問

次に喜念地区の町営住宅建設について、伊仙町公営住宅等長寿命化計画の当初の予定では、28年度に喜念地区となつていますが、今後住宅建設は計画どおり行われるのか。

答

喜念地区の町営住宅建築について、伊仙町公営住宅等長寿命化計画により、26年から27年度にかけて、町営住宅建築に適した用地の設定、確保した敷地の造成、設計までを行い、28

年度には建設、竣工までいけるものだと考えています。

(質問の結びに)

伊仙町には、大企業(日本マルコ等)が来ます。住宅を増やしていくと確実に一定の所得があり、伊仙町の活性化にもつながります。ぜひ、喜念集落を含め、住宅設備を進めていって下さい。



町内における住宅整備が本格的に行われ、以前にも増して町には明るい声がかかってくる。今後も町内の住宅整備未着手集落を重点的に検討していく。(写真：犬田布戸住宅)



琉 議員

問

教育行政について、重点施策であり、実践する学校、実践する家庭と地域という事で、将来を展望した環境設備の充実として、年次的に計画を行い、整備・校舎改築・改修をする等挙げていますが、各学校施設設備について、現場の学校側や家庭や地域からの要望はないのか。現状はどうなのか。

答

昨年度、町長、副町長、教育長、教育委員会総務課長で全学校を訪問して要望を聞き、すぐ対応できたのは、パソコン整備でありました。他にも小規模校におけるトイレ改修や図書館の充実等々の要望もあり、今後長期的な視野のもとに緊急性を考慮して、なおかつ優先順位をつけて整備をしていきたいと思っております。



地元住民や学校OBの方たちの熱心な要望もあり、町の計画に沿って改築された中学校。今では生徒だけでなく、地元住民の生涯学習の場としても重要な役割を担っている。
(写真：犬田布中学校)

問

道德教育について、1958年に、小・中学校では、道德の時間があり、児童・生徒は、道德を守り、それに従おうとする正邪善悪を判別し、善行を行おうとする心の教育が充実していた様に思います。中国の思想家「孟子」「孔子」などの哲学をわかりやすく、紙芝居や童話、またテレビの普及により、人形劇やアニメ等でいつの間にか、自然と

答

身に付いたように思います。現在、道德教育についてどのような取り組みがなされているのか。

教育の基本目標は人づくりであり、その人づくりを支えるのが、人間性、いわゆる道德であり、進路選択の幅を広げるのが道德であります。だから、人間の向上を図る道德と学力向上は表裏一体であり、学校教育の大きな目標であります。各学校でも全教育活動のなかで、道德的実践力を育む指導を推進してきたが、具体的に朝の登校指導や挨拶運動、校長の講話や各教科の時間、給食や清掃の時間にも道德教育は行われ、登校から下校まで意図的、継続的になされ、週一回の道德の授業を効果的にする為、道德教育推進教師の配置や、子どもたちの実態を考えた、年間指導計画の作成や生徒指導の研修も行っています。学校、家庭、地

問

少子化問題について、伊仙町は特殊出生率日本一であります。町の児童生徒の数は、人口の10.4%で、高齢化率は33.4%と依然として少子高齢化の町であります。徳之島では、高校までは地元で学び、そのうえの進学は98%が本土へ出て、就職も本土で就き、生活の場も本土で行い、島へ帰ってくる人は1割未満ではないかと思えます。こうした状況のなかで、少子化対策について、どのような取り組みをしているのか。

答

少子化対策として、島を誇れる教育を実施する事が重要だと思えます。それは自分の生まれたこの島を愛する「愛郷心」や誇り、島の産業を守り育てる人材

の育成であります。高校を卒業後は、ほとんどが島外へ出ていきますが、島に帰りたいたと思わせる教育を、小・中学校の時代にしていくなければならないと思えます。また、特殊出生率日本一の島の誰もが安心して、お産ができる医療整備や子供を育てやすくするための保育所等の環境整備と、若者の職場を確保するための企業誘致を進め、長期的な町づくり、地域づくりを、インフラ整備を含めて検討していかなければなりません。さらに企業にいかん優秀な若者をこれから雇用してもらい、働かせていくか、それと同時に住宅整備など総合的な問題に、町独自の個性のある町づくりをし、しっかりと勘案しながら、町民とともにこの地域が将来どのような地域になるかを視点において計画が必要だと思っております。

町民の皆様ありがとうございました！

さとうきび今期夏植え目標達成！！

今期植付目標面積 **今期植付達成面積**

200ha⇒245ha

※掲載されている夏植え面積は、10月末時点での数値です。

町民の皆様へ

夏植え目標達成にむけて官民一体となって推進活動をし、私たち議会においても島の経済を支えるさとうきびの増産について、真剣に議論を重ね前回発行（9月）の「議会だより」でも町民の皆様へ重ねてお願いをしておりましたが、おかげさまで町民の皆様のご協力により今期の夏植え目標面積を大幅に超えて達成することができました。これもひとえに町民の皆様のご理解とご尽力の賜物だと存じます。町民の皆様には、この誌面をもちまして厚く御礼を申し上げます。

伊仙町議会

「町民の声 (第4号)」

日本郵便 伊仙郵便局局長 吉見 晋 さん

Q 自己紹介と伊仙町に着任して感じたこと。

A 私は、昭和39年の辰年生まれで、西伊仙東（白組）出身です。

30年前に高校を卒業し東京へ出て、そこで将来必ず地元へ帰り、地域に貢献できる職業に就きたいと思い、郵便局に入職致しました。

それから各地の郵便局で地域の皆様にお世話になりながら、19年前の異動で帰島し、現在の伊仙局に着任して8年目となります。

近年、伊仙町では行政、民間において様々なイベントが開催されておりますが、これらは将来へ向けて、わが町を興していこうという町民の意識の表れだと強く感じております。こういった動きの原動力は、脈々と受け継がれた結の精神、熱き思いを実践していく人間力や行動力、このパワーこそが伊仙町の財産のひとつだと確信しております。



Q 伊仙町をPRするために必要と感ずること。

A ○ホームページ等、PCネットワークを最大限に活用したPR、官民協力の再構築を行い、希少価値のあるものを全世界へ発信すること。

○充実した宿泊施設の整備。（町営・第3セクター・業界への斡旋等）観光、保養、出張、イベント等、多方面からのお客様の受け入れ体制を地元で構築。世界自然遺産登録をも視野に入れた計画が必要。

○現在の出張物産展は、大都市中心で行っているが、今後もそれを継続しつつ、それと並行して全都道府県を網羅して開催すること。

○人材育成として、先駆的な町内外の著名人の講演や研修等で、将来を担う人材創り。

Q 伊仙町議会に対しての要望

A 議会中継を自宅で見ることができ、町民に「より身近」なものになったと思います。町の未来を左右する重要な議決機関として、更なる活発な討議を展開していただきたいと思います。

Q 今後の伊仙町に期待すること

A 第一次産業（農業、漁業）を根幹とした発展。町の土台を築いてきたものは「糖業」であることを認識し、栽培、加工、販売の安定化。また、近年発展し続けている、果樹・バレイショ・菊・ゴマ・コーヒー・長命草等を助成・育成し、幅広い農業振興、後継者育成をさらに強力に取り組んでいただきたいと思います。

Q その他

A 日頃から、郵便局をご利用頂きまして誠にありがとうございます。郵便局はユニバーサルサービスを基本に、地域の皆様のお役に立てる企業体を目指し、日々精進していく所存でございます。今後とも、郵便（物流）貯金（金融）保険（保障）、また2年後を目途に「みまもりサービス」として、高齢者宅への訪問事業を展開していく予定でございます。引き続き、ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

農家の皆様へお知らせ 奄美群島産農産物輸送コスト支援事業について

農家の皆様へ、奄美群島産農産物輸送コスト支援事業について各種報道及び経済課通信等でお知らせをしておりましたが、このことについて町民の皆様より同事業の実施時期についての問い合わせがありました。

この事業は、平成26年度（平成26年4月～）から実施予定となっており、今期（平成26年1月～3月）の農産物の輸送費に対するの助成はありません。

つきましては、農家の皆様には改めてご理解賜り、同事業の詳細については、後日「経済課通信」等で改めてご報告させていただきますので、ご了承頂きますようお願い申し上げます。

「奄美群島産農産物輸送コスト支援事業」に関するお問い合わせ
伊仙町役場 経済課 (0997) - 86-3111 まで

議会のうごき

- 平成25年 6月
 - 30日 保直次氏記念碑竣工（除幕式） 記念式典に議長が出席（井之川公民館）
- 平成25年 7月
 - 5日 関西徳州会郷土表敬訪問歓迎交流会に議長が出席（天城町）
 - 9日 徳之島三カ町議会議員連絡協議会役員会に議長、副議長、2常任委員会委員長、事務局が出席（天城町議会議員会室）
 - 16日～17日 公立高等学校生徒募集定員策定地区説明会に議長が出席（和泊町）
 - 23日 子ども議会に副議長が出席
 - 24日 鹿児島県市町村総合事務組合議会臨時会に議長が出席（鹿児島市）
 - 28日～29日 奄美・やんばる広域圏交流推進協議会総会、講演会及び視察研修会に議長が出席（奄美市）
- 平成25年 8月
 - 3日～6日 離島議長行政調査に議長が出席（種子町・南種子町）
 - 6日 平成25年 第2回伊仙町議会臨時会告示
 - 7日 市町村政研修会に全議員が出席（鹿児島市）
 - 10日 議会運営委員会（議会委員会室）
 - 12日 平成25年 第2回伊仙町議会臨時会
 - 17日 金婚式に全議員が出席（ほーらい館）
 - 30日 JAあまみ徳之島地区野菜部会総会に議長が出席（JAあまみ徳之島事業本部）
- 平成25年 9月
 - 4日 平成25年 第3回伊仙町議会定例会告示
 - 10日 議会運営委員会（議会委員会室）
 - 11日 平成25年 第3回伊仙町議会定例会

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承ください。

編集後記

町民の皆様並びに議会だよりをご覧の皆様、毎日のお仕事大変お疲れ様でございます。今年も早いもので師走を迎え、議会だよりも今年最後となりました。また、現在の伊仙町議会が発行するものも、期中最終となり、節目の発行となりました。これまで「伊仙町議会」並びに「議会だより」に多大なるご支援とご助言を賜りまして誠にありがとうございます。今議会においては、「開かれた議会」を目標に掲げ、議会だよりの紙面の充実の議論を中継、米軍普天間基地調査報告会の開催、特別支援学校誘致に係る勉強会等々、あらゆる場において現地にお伺いし、議論も例年以上に行っており、場での議論も執行部と車の両輪の役割をしっかりと行われつつありますが、議論を交わし、町政発展の為に侃々諤々、議論を通じて議員全員がそれぞれ、チェック機能を通じて執行部へ提言し、これが、町民の皆様のご期待に応えられたかがわかりませんが、4年間日々精進して参りました。来年は私たち議会議員も、その期待に応えられてきたかを判断してもらいます。伊仙町議会議員選挙の年でもあり、更なる発展の為に、議会に対する見やご要望を引き続きお寄せ頂きますとともに、今後とも伊仙町議会をご支援賜りますようお願い申し上げます。編集後記と致します。

（文責：伊藤 一弘）

- 編集委員会
- 委員長 琉理人
 - 副委員長 清水喜男
 - 委員 永岡 良一
 - 委員 前 徹志
 - 委員 伊藤 一弘